

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型児童発達支援ルーム あすたむ		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	86名	(回答者数) 45
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	短時間集中型(1時間)のプログラムを1日4回行い、各セッションは最大4名までとしている。また、個別性を重視できるよう、利用児と同数もしくはそれ以上の職員配置をしている。	各セッション、同年代及び活動内容が同程度となるようグループ編成をしており、小集団活動に取り組みやすくしている。また、個々に応じた個別での活動を提供し、その際には職員が1対1で対応している。	心理担当職員を有しているが、心理検査のバッテリーがないため事業所での心理検査が行えない状況である。今後、バッテリーの購入を検討していく。
2	感覚統合療法を実施するための器具を複数有しており、自宅や保育園、幼稚園、小学校で経験できない活動を行える。	経験を重ねることに特別な配慮を要する子どもたちに対し、環境的にも人的にも安全、安心を担保し、豊かな経験を増やしていけるような環境設定を行っている。	療育室をさらに立体的に使えるよう、はしごやロープの導入を検討している。経験の幅を広げることが目的。
3	児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の多機能で事業を行っており、ライフステージの変化で生じやすい課題や、子どもたちが普段生活している場所での課題に対して幅広く、かつ柔軟に対応できる。また、対応可能な専門職を多数有している。	日常的に幼保、小学校などと連携を行っている。また、ライフステージの移行時には引継ぎ会への参加、教育相談への同席を積極的に行っている。また、PT,OT,STや心理士が訪問を行い、保育や教育現場にない視点を提供している。	事業所での取り組みを実生活に活かしてもらうことが目的であるため、幼稚園や保育園、学校現場のことを深く知る必要がある。そのため、日頃から関係機関の先生方とのコミュニケーションを大切に、先方の価値観をより知っていく取り組みを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	短時間集中型のサービス提供であるため、排泄や食事、更衣などの日常生活動作へのかかわりが薄い点。	運動面、認知面、言語面に特化したプログラムを提供するために短時間集中型としているため。	本人や保護者の困り感を丁寧に聞き取り、日常生活動作で躓きが大きい場合には模擬的に練習を行うなど、工夫を行う。
2	児童発達支援、放課後等デイサービスともに送迎を行っていないため、保護者のご都合によりご利用いただけないことがある点。	タイトなタイムスケジュールでサービスを提供しているため、送迎を行うことが困難。	今後も送迎を行う予定はない。保護者にも1時間同席していただいております。そのメリットは大きい。本人支援と並行して家族支援にも力を入れているため、引き続き従来のスタイルでサービス提供を行っていく。
3	プログラム内容や療育で使用している器具自体が幼児～小学校低学年向けであるため、小学校高学年や中高生になると完全に個別なプログラムとなる点。	感覚統合療法自体が低年齢向けのプログラムであるため、高学年への対応が困難。	もともと個性の高いサービス提供を行っているため、感覚統合療法の適応年齢が過ぎても個別での関わりは継続可能。現在も、学校との連携や職員との密な関わりを求めて中学生、高校生が通所してくれている。